環境中長期目標と実績

目標項目	2025年目標	2030年目標	実績と評価						
			2021年達成度	2022年達成度	2023年達成度	2024年達成度	2025年達成度	2025年全体評価	2025年概況と今後の対策
容器・包装素材のプラスチック： 植物由来／リサイクルプラスチック使用比率向上*1*2	25%	50%	5%	6%	14%	27%	28%	◎	ハブラシ、歯間ブラシのパッケージに用いる包装材への再生プラスチック採用、洗口液ボトルへの植物由来プラスチック採用を進めています。今後も採用率の向上に努めます。
使い終わった容器・包装材： リサイクル／リユース可能な材料*3比率向上*1*2	55%	100%	73%	68%	75%	74%	71%	◎	接着剤・シーリング材の金属缶が高実績に反映されています。一方、ハミガキ、ハブラシなどでは品質・安全性確保や、使い勝手向上のため異素材が複合化された容器が多く、今後は品質を確保しながら廃棄時に素材を分別しやすい容器の開発を進めます。
容器・包装材に使う紙： FSC®*5等の森林認証紙比率向上*1*4	100%	100%	53%	70%	71%	81%	89%	△	製品の個装箱、ハブラシ、歯間ブラシのパッケージ台紙に使う紙を森林認証紙に順次切り替えています。2025年は欧州での採用が拡大しました。今後は外注製品での採用拡大を進めていきます。
製品につかうパーム油： RSPO*6等の持続可能認証比率向上*7	50%	100%	9%	14%	25%	40%	51%	◎	洗口液の原料であるグリセリンに用いるパーム油においてRSPO認証品の採用を拡大しています。今後は他の製品カテゴリーなども含め採用を拡大します。
自社工場・事業所で使う電力： 再生可能電力（CO_2フリー電力）比率向上*8	65%	100%	26%	27%	24%	24%	68%	◎	欧州ではほぼ100％再生可能電力を採用。ドイツ、日本、シンガポールの工場では太陽光発電パネルが稼働中。日本、アジア、米州で再生可能電力調達が進み2025年目標を達成しました。
自社工場で使う水： 生産量当たりの水使用量削減（kgあたり）*9*10	-10%	-20%	1%	9%	-23%	-12%	-26%	◎	事業や地域の状況による変動はあるものの生産工程見直しにより着実に水使用の効率化が進んでいます。今後も水資源の有効活用に努めます。
自社工場で排出するCO_2： 総排出量削減（Scope1+2）*8*9	-50%	-85%	-22%	-21%	-13%	-17%	-59%	◎	サンスターグループでは事業所で使うエネルギーの80%が電力使用によるもので、再生可能電力比率向上、省エネ設備導入、工場設備の効率的な運用などを進めることで、大幅にCO_2排出を削減し2025年目標を達成しました。

＊集計範囲：グループグローバル自社工場のデータを統合。消費財米国工場は電力、CO_2、ツバメックス社は電力、水、CO_2 のみを集計
消費財事業＝オーラルケア製品、化粧品、健康食品など生活者向け製品関連事業
生産財事業＝自動車・建築・電子機器用接着剤・シーリング材、バイク・自動車用金属部品など産業用製品関連事業、トーヨーポリマー社除く
＊全体評価の判定基準：◎計画以上、〇ほぼ計画通り進捗、△計画未達だが進展あり、× 現状より悪化
＊1 消費財事業の欧州調達分を含む、 ＊2 製品容器・個装包装材分（日本消費財及び生産財は外注先調達材料を除く）
＊3 リサイクル／リユース可能な材料＝製品使用後に容易に素材別に分離可能としたもの、 ＊4 個装包装材分（日本消費財、生産財は外注先調達材料除く）
＊5 FSC®（Forest Stewardship Council®、森林管理協議会）FSC N003962 詳細はこちら：www.fsc.org
＊6 RSPO（Roundtable on Sustainable Palm Oil）＝持続可能なパーム油のための円卓会議。当社進捗状況：rspo.org/ja/members/4-1382-21-000-00/
＊7 自社調達分、2021 年度はマスバランス品、 ＊8 消費財の米国生産拠点、日本・米州・欧州自社オフィスの Scope2 含む
＊9 基準年：消費財事業 2020 年、生産財事業 2019 年 (2020 年顧客企業群が大幅減産年となったため)、 ＊10 生産財事業・山梨工場の地下水含まず